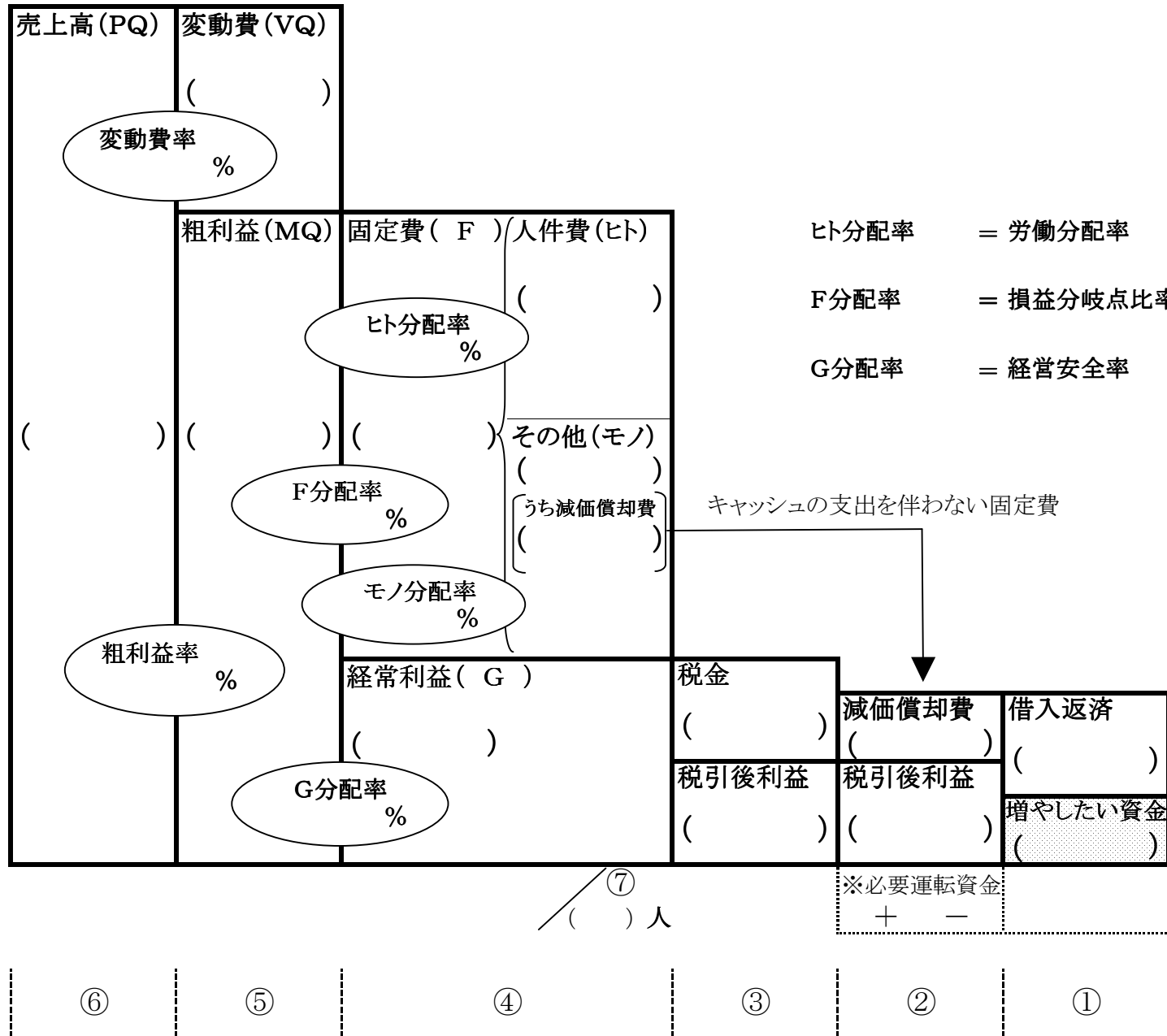


ステップ式 PQ図(変動損益計算書)

年 月 ~ 年 月
(月) (千円)



増やしたい資金から見た利益計画

(1) 必要売上高の算定

- ① 増やしたい資金の額(設備投資・内部留保)と借入返済額を記入
- ② 減価償却費を記入し、①と減価償却費との差額を税引後利益として算出
- ③ 税引後利益と同額を税金の額に記入(税率50%)
- ④ 税金と税引後利益を足して必要利益(経常利益)を算出し、固定費の人件費・その他を記入
- ⑤ 固定費と必要利益(経常利益)を足して必要粗利益を算出
- ⑥ 必要粗利益を粗利益率で割って必要売上高を算出

(2) 利益計画の妥当性をチェック

- ⑦ 人員を記入
- ⑧ チェック項目
 - (イ) 一人当たり粗利益
 - (ロ) 一人当たり人件費
 - (ハ) 労働分配率
 - (ニ) 損益分岐点比率

売上を伸ばすことが経営目的ではなく利益を増やすことが経営目的

(1) 採算の眼 $MQ > F$

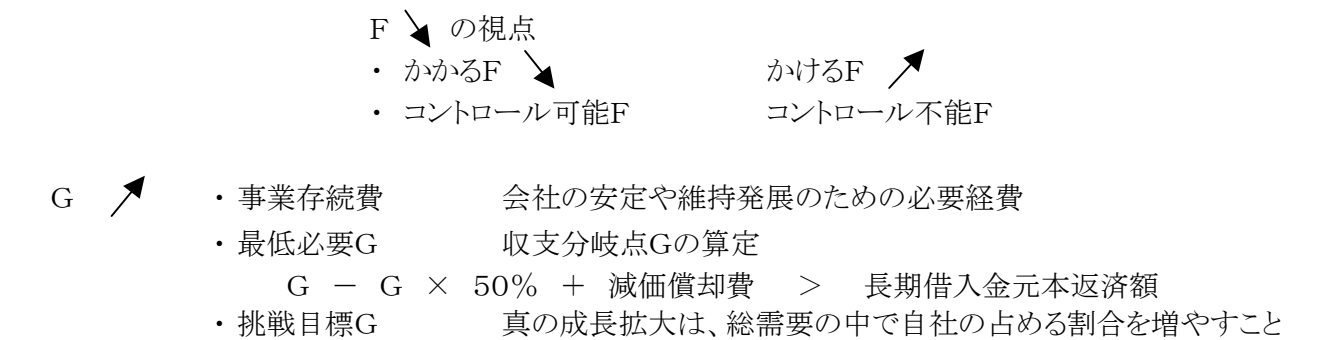
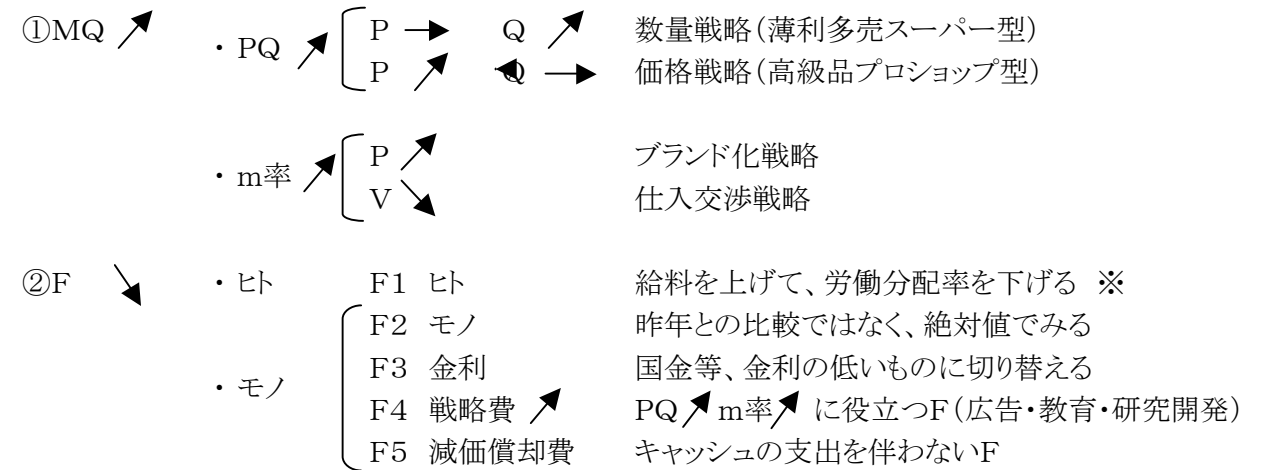
粗利益は固定費より大きくなければならない。単月で必要な粗利益を把握すること。

(2) $\frac{F}{MQ} =$ 損益分岐点比率 中小企業の成績表
(粗利益に占める固定費の割合 : 低いほどよい)

F/MQで損益分岐点をチェック			
70%以下	$MQ > F$	S	超優良企業 余裕しゃくしゃく
70%超 85%以下	$MQ > F$	A	優良企業 少し余裕あり
85%超 95%以下	$MQ > F$	B	普通企業 まあまあ
95%超 100%以下	$MQ = F$	C	損益分岐点企業 全く油断不可
100%超	$MQ < F$	D	赤字企業 未来が危ない

(3) 経営者の仕事はふたつ

① MQ を最大化すること ② そのMQを ヒト・モノ・G にどう分配するかということ



※ $\frac{\text{ヒト}}{MQ} =$ 労働分配率 賃金の生産性の指標ではなく事業経営そのものの効率を社長に教えてくれるもの
(粗利益に占める人件費の割合 : 低いほどよい)

利益責任は社長にあり。社長の手腕で利益を出して経営を安定させ給与が上がるからこそ社員はやる気になる。